第２回御坊市介護保険事業計画策定委員会　議事要旨

開催日時　令和８年１０月２１日（水）午後１時３０分から午後３時１０分
場　　所　御坊市役所　１階　多目的ホール
出 席 者　委員１９名（欠席委員３名）　事務局１４名
資　　料　資料１　次第
　　資料２　ワークショップ資料
　　資料３　個人ワーク用シート
　　資料４　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査集計結果

１　開会　　福祉部長挨拶

２　ワークショップ

テーマ：これからの御坊市と介護保険のあり方

事務局から介護保険制度創設の背景、制度開始からの社会構造の変化と本市の現状について説明を行った。その後、2040 年に向けた地域課題とこれからの介護保険制度について、地域住民のモデルケースを挙げ、「地域で元気に暮らし続けるために、私たちには何ができるか」「自助・互助」をテーマにグループ内で意見を出し合った。

・人とのつながり
- 体づくり（食事管理、運動）
- 健診を受ける
- とにかく外に出て人と話す
- 地域の行事・コミュニティへの参加
- 日常の挨拶から（声を掛け合う）

Ａグループ



・気持ちに寄りそう
- 地域のイベントに参加
- 相談先を作る（ＡＩもあり？）
- 声掛けを通じて気持ちを把握
- 趣味を通じた楽しみや役割を見つける
- 家庭菜園などの趣味活動が地域のつながりに

Ｂグループ



・近所づきあい
•地区の清掃等に参加
•家の周りだけでも１日１回外出
•お茶会
•家庭菜園

Ｃグループ



・同年代のつながり
•頻回な同窓会など同年代の付き合いが外出機会に
•友人と散歩をする
•情報を得る手段を確保する
•詐欺被害が心配
•ペットを飼うなど生活に変化

Ｄグループ



【全体まとめ】

- 健康維持のための健康診断の受診や、いざというときのための平時からのつながりづくりが重要である。
- 近所づきあいは急には築けないため、今ある付き合いや同窓会などのつながりをいかに維持・発展させるか。
- １人暮らしが増える中で、自分ができることに継続して取り組みつつ、積極的に他者との関わりを増やすことが大切である。

３　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果について

アドバイザーから説明

【概要】

- 身体状況や外出、近所づきあいの状況など、75 歳がひとつの転換点となり、変化が表れやすい傾向がある。
- 移動手段の確保や孤立防止の観点から、早い段階から近隣や地域との関わりを持っておくことの必要性が浮き彫りとなった。
- 本日のワークショップでの意見とも合致する内容となっている。

４　質疑応答・意見交換

平岡委員　　日常生活圏域ごとに分析されている点は非常に興味深い。15 分以上続けて歩いているかという質問に対し、「歩けない」の割合が上昇しているとのことだが、全体の 15%以上とかなりの数になっている。日常生活においてどのような支障が出てくると考えられるか。

事 務 局　　スーパー等の店舗が遠くなっており、バスの便も減っているため、移動手段や買い物に支障が出てくる。また、地域の集まりや集会所などへ歩いて行く際にも、15 分程度歩けることは生活に必要不可欠であると考えられる。

５　委員長講評

日本国内の介護人材が 2022 年度から全く増えないと仮定した場合、団塊ジュニア世代が高齢者となる 2040 年度には、全国でおよそ 57 万人の介護人材が不足すると予測されている。この課題は御坊市においても全く同様であり、高齢者の介護ニーズに見合うだけの介護人材を確保することが極めて困難な状況である。

第１０期計画においては、介護ニーズに見合う需要とコストを議論する以前に、介護ニーズをこれ以上増やさないための「介護予防」にどれだけ重点的に取り組むか、いかに介護予防を充実させるべきかが大きなポイントとなる。

本日の資料として提供された「御坊市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査集計結果」は、今後介護予防のためにどういったことに着目すべきか指標としても参考になるデータであると察する。大いに活用してほしい。

６　閉会

事 務 局　第３回策定委員会は１２月２３日（水）午後１時３０分から

場所：１階多目的ホール

内容：給付分析結果の報告及び介護保険料案を示す予定